

## 有機農業の取組事例（ 日立市:すがの農場 ）

### 「有機米、有機野菜栽培」への取組 （日立市十王地区:すがの農場）

約50年、有機米及び有機野菜の栽培による農業経営を展開しています。（代表者:菅野氏 現在72歳）



- ◆ 栽培面積：約6.5ha（水田：約5ha，畑：約1.5ha）  
→全面積：有機JAS認証 \*野菜：約40品目

#### ◆ 経緯等

- ・ 卒業後、就農（父親の農業を引き継ぐ）  
→父が、（戦後）満州からの引揚者として、（福島県から）十王町（現在の日立市）に入植。開拓当時は、畑だけだった（1.5ha）が、その後に、田を少しずつ取得。

#### □ 有機栽培のきっかけ、最近の展開等 ～菅野氏からのコメント～

- ・ 20歳前半に、体調を崩した。自分自身の健康を考えて、無農薬による栽培を始めた。しかし、3年間は、うまく栽培できなかった。
- ・ その後、体調も戻り、有機栽培も自分なりに出来るようになった。
- ・ 手間はかかるが、健康を考えて、今後とも、有機農業を続けたい。

- ・ 就農当時は、慣行栽培（「芋掘り体験」→学校や市民から好評だった。市民団体から「有機栽培」を頼まれたが、手間や時間等の負担があることから、断った経緯もあり）
- ・ 20歳前半に体調を崩してから、有機栽培へ転換（畜産もやっていて、自分で色々研究しながら進めた）
- ・ 「大地を守る会」へ 有機農産物を出荷（交流のあった長野県の有機農業者から「大地の会」を紹介される）
- ・ 有機JAS認証（東京：アフアス認証センター \*大地の会から紹介された） ➡ 制度当初から認証受けている

#### ○ 有機JAS制度 2001年～（法的規制、認証する制度へ）

- ・ 1992年制定の農林水産省ガイドラインで、農産物等の有機に関する表示方法を示したが、法律で規制をしていなかった。（→現実的には様々なものが流通）
- ・ 認証の対象は、「生産されるための全ての行程」  
→一度認証されても、その後1年に1回調査有

#### □ 「大地を守る市民の会」 1975年設立

- ・ 時代背景（公害問題 例:有吉佐和子「複合汚染」小説）  
→安全・安心な食材を求める「生産者」「消費者」をつなぐ
- ・ 市民団体から組織化へ 1976年「大地を守る会」に移行  
→初代会長:藤本敏夫（加藤登紀子の夫）  
東京で「無農薬農産物フェア」開催